

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は堅調に増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成27年11月)	今回(平成28年2月)	
住宅建設	大幅に増加	増加	

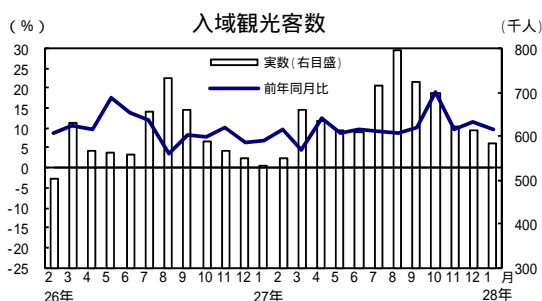
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客については、10月は、前年度2回来襲した台風の影響がなかったこと等から、前年を上回った。11月は、修学旅行が好調であったものの、ふるさと旅行券事業の実施による各方面との競合等により、前年を下回った。12月は、年末年始が短い連休となったことによる影響等が懸念されたものの、LCCを中心に好調に推移したこと等から、前年を上回った。

外国客については、10月は、国慶節等の連休による旅行需要の増加や、クルーズ船の寄港回数の増加等から、前年を上回った。11月、12月は、LCC新規就航など航空路線の拡充や、例年10月までとなっていたクルーズ船の寄港があったこと等から、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を上回っている。



入域観光客数等の動向

(単位:千人、%)

	27年4-6月	7-9月	10-12月	28年1月
入域観光客数	1,857	2,236	1,930	582
(前年比)	10.2	9.3	13.5	9.7
ホテル稼働率	77.1	87.8	76.7	-
(前年差)	1.3	0.9	2.8	-

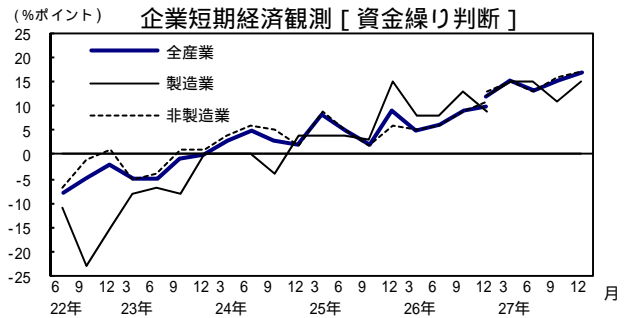
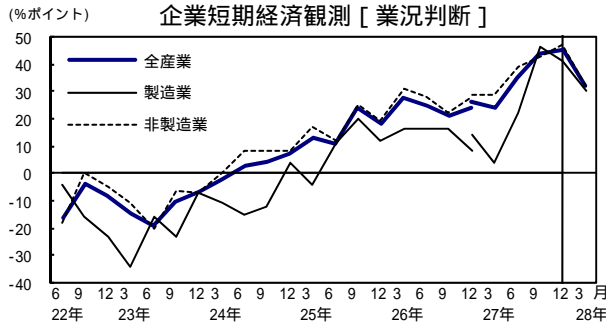
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

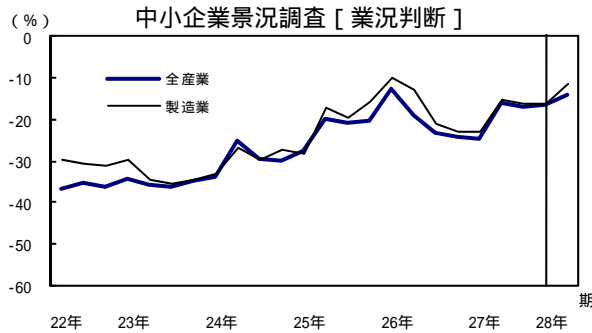
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばい、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大となっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年3月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。

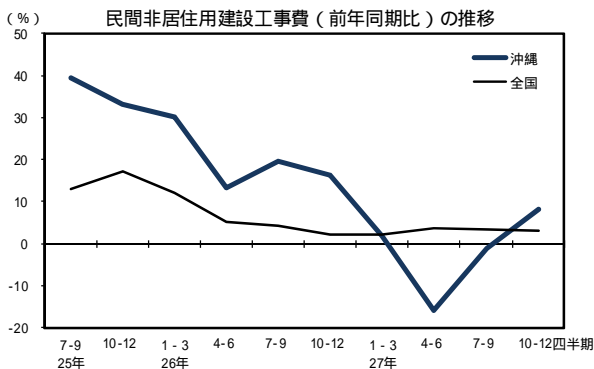
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]
「3か月前と比べると良くなっているが、それは季節要因によるものである。前年同時期の動きと比較すると売上高は横ばいか微減で推移している(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績	27年度値
全産業	10.2	6.6(7.2)
製造業	1.4	48.5(2.3)
非製造業	14.0	5.3(7.9)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は堅調に増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.7%減、11月は同1.2%減、12月は同1.6%増となった。

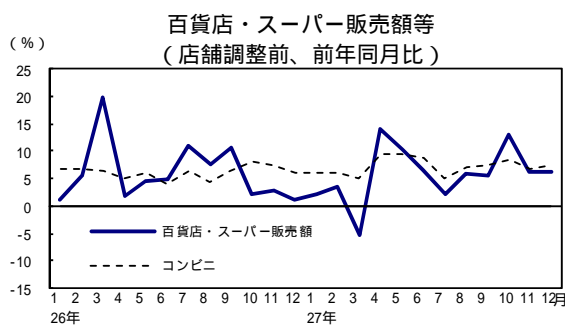
百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパー販売額は、10月は催事効果は販促効果に加え、インバウンド消費が好調なこと等から、前年を上回った。11月は新規催事による集客効果などにより、前年を上回った。12月は催事効果や、お歳暮ギフトなど年末・年始関連の商品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

沖縄地域の家計動向関連DIは、51.9となり前月より5.0ポイント上昇した。

「気温がやっと冬らしくなり暖房商品に動きが出た。景気の影響ではないが、季節らしい天気になると消費は活発になる (家電量販店)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

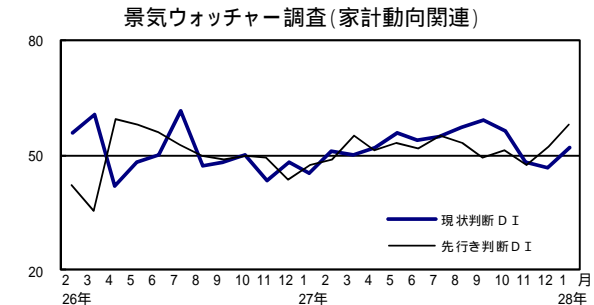
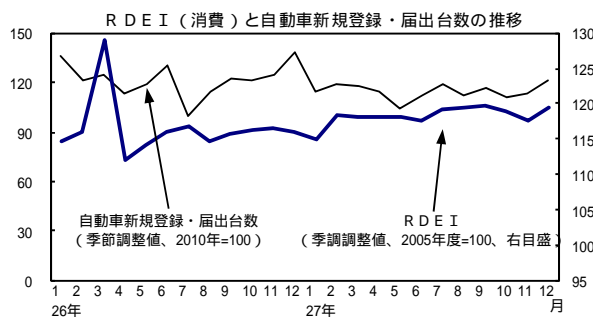


	27年10-12月	27年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.7	0.7	1.2	1.6
百貨店・スーパー(*2)	8.2	13.0	6.4	6.3
コンビニ(*2)	7.5	8.3	6.8	7.3
乗用車(*3)	8.9	8.5	9.4	8.8
(季節調整値)(*3)	0.6	4.2	1.4	7.6

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)、コンビニは日本銀行別荘支店調べ。前年同期(月)比 (%)

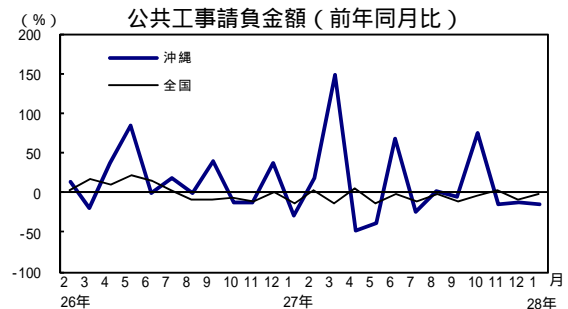
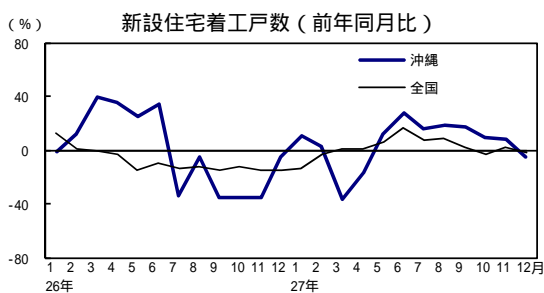
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度とほぼ同水準である。

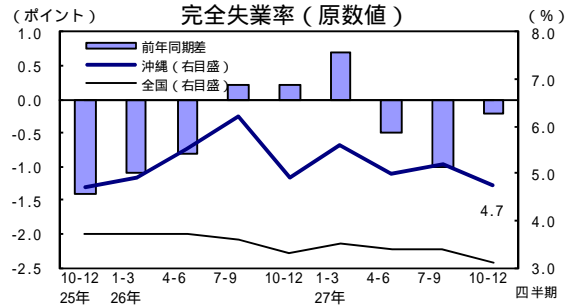
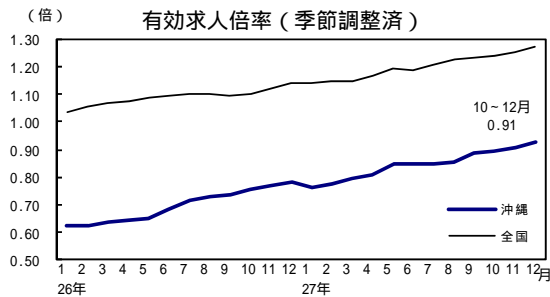


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[雇用関連(現状)]

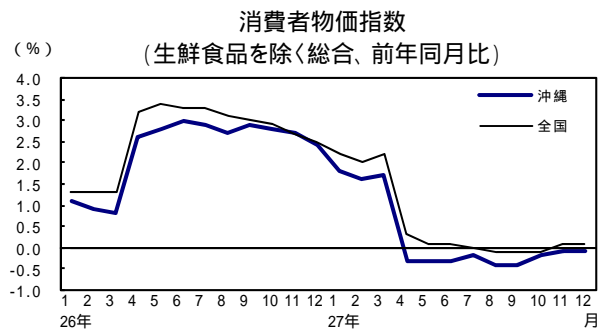
「今年度も残り少なくなっているが、企業の採用意欲は衰えていない。辛抱強く採用計画を遂行している姿勢が見える(学校[専門学校])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	28年1月
倒産件数	22	12	18	16	5
(前年比)	22.2	14.3	0.0	42.9	28.6
負債総額	23	9	53	19	4
(前年比)	8.9	77.5	182.4	7.3	0.0



景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・1点単価のアップが続いているため、客単価アップも続いている(スーパー)

<先行き>

・現時点の予約状況から推測できる今後2~3か月後の稼働率は、前年同月実績を上回る見込みである。旧正月期間の予約状況や、企業による報奨旅行等の団体宿泊予約が順調である(観光型ホテル)

景気ウォッチャー調査
(合計: 家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

